

「入信の秘跡について」 2019年度洗礼準備講座資料 (19.2.21)

キリストは秘跡である

1. 永遠の父である神は、英知といつくしみに基づく全く自由な神秘的配慮をもって全世界を創造し、人々を神の生命（永遠のいのち）に与るよう高めてくださった。神である父は、また、人祖アダムによって罪人となった人間を見捨てることなく、すべてを御子において刷新することを望まれ、見えない神の姿である御子を（コロサイ 1.15-20 参照）、世に遣わされた。こうして、人となられた神の独り子である主イエス・キリストは、父のみ旨を果たすために地上に神の国を到来させ、父の神秘を人々に知らせ、従順によって贖いを成就された。実に、キリストご自身において神の国は実現しているのであって、キリストこそ人々に神のいのちを与える見えるしるしそのものであり、**根源的な秘跡**である（『教会憲章』2,3項参照）。

教会は秘跡である

2. 父が子に、地上で行うべきものとして委ねられた御業が完成したのち、五十日祭に聖霊が注がれ、教会を常に聖として、こうして信者が、キリストによって聖霊において御父に近づけるようになるためであった。聖霊はいのちの霊、永遠のいのちの湧き出る泉であって（ヨハネ 3.13-14;7.37-38 参照）、教会と信者の心の中に、あたかも神殿におられるように住み、信者の中で祈り、彼らが神の子となったことについてのあかしを立てられる。
こうして教会は、父からの賜物として聖霊を与えられ、愛を謙遜と自己放棄を命じるキリストの掟を忠実に守るとともに、諸国民に神の国を告げる使命を受け、地上におけるその芽生えとなった。したがって教会は、神との親密な交わりと全人類一致のしるしであり道具であって、キリストにおける**秘跡**である（『教会憲章』4,5,1 参照）。

3. 教会の諸秘跡

人となられた神の子は、死と復活により（過越の神秘）、死に打ち勝って人類をあがない、人間を新しい被造物とされ、諸国民のなかから呼び集められた兄弟姉妹たちを、ご自分の霊を与えることによってご自分のからだとして（エフェソ 1.22-23 参照）、神秘的に構成されたのである。この、キリストの体である教会の中で、キリストのいのちが信者の中に広がって行くのであって、彼らは見えない恵みの見えるしるしである諸秘跡をとおして、苦しみと栄光を受けたキリストに神秘的、実在的に結ばれる（同上 7項参照）。

洗礼・堅信・エウカリスティア（聖体）

4. すべての秘跡の中心であるミサ、すなわち主の晩餐と、それに向けられている洗礼と堅信は、キリスト教入信に秘跡と呼ばれる。わたしたちは、この三つの秘跡によって悪の力から解放されたまことの自由を得、キリストとともに死んで葬られ、キリストと共に復活させられ神の子となる霊を受ける。そしてキリスト教生活全体の源泉であり頂点である主の過越の記念を、神の民とともに感謝にあふれて喜び祝う。洗礼によって、わたしたちはキリストに結ばれて神の民に加わり、またすべての罪をゆるされ、水と聖霊によって新しく生まれる。こうして私たちは神の子と呼ばれ、事実、神の子となる（ヨハネ一、3.2;ローマ 8.15 参照）。

堅信によって、父の賜物である聖霊のしるしを受け、主にいっそう似る者となり、聖霊に満たされる。こうして、洗礼のとき宣言した信仰に生き、世にあって言葉と行いでキリストの証しとなり、キリストの体のために働く。さらに主の晩さんのあずかり、いのちの糧を受け、神の民の一致を深めて行く（ヨハネ 6.55 参照）。

このように、キリスト教入門の三つの秘跡は互いにあいまって、キリスト者が愛によって次第にキリストの背丈に成長するように導き、神の民全体が世界の中で担っている使命を果たす力を与える（『教会憲章』 31 参照）。